

## そうだ、ミュージアムに行こう

夏にどこかへ出かけたいけれど、炎天下の中で動くのはちょっと腰が重い…と感じている方、屋内で涼しい博物館や美術館といったミュージアムへ行ってみてはいかがでしょうか。今回は、ミュージアムを訪れたくなる魅力や、働いている人の視点がわかる本をご紹介します。

1冊目は、三浦しをん/著『ぐるぐる・博物館』です。

博物館好きの著者が、各地の博物館を訪ね、その様子や魅力をユーモア全開でレポート！様々なジャンルを網羅しつつ、著者の個人的な興味のおもむくままにセレクトされた、個性的で魅力的な10館の博物館が紹介されています。

「お堅い」「地味」というようなイメージが浮かびやすい博物館ですが、それだけではないことがよくわかる一冊です。いろんな博物館のぐるぐる旅記録をお楽しみください。

2冊目は、大澤夏美/著『ミュージアムグッズのちから』です。

ミュージアムショップで販売されているグッズにスポットを当てた一冊。「かわいいを楽しみたい」「感動を持ち帰りたい」「マニアックを堪能したい」「もっと深く学びたい」の4つのカテゴリ別に、個性豊かなグッズたちが紹介されています。また、作り手の想いや制作秘話がつまったインタビューも掲載されていて、ミュージアムグッズが持つ役割や魅力などを知ることができます。この本から、ミュージアムグッズの世界へ飛び込んでみてはいかがでしょうか。

3冊目は、一色さゆり/著『コンサバター 大英博物館の天才修復士』です。

大英博物館で修復を専門とするコンサーベーション部門。そこで勤務する糸川晴香は、ひよんなことから部門トップのケント・スギモトから助手をやってみないかと声をかけられて…？

本作には、すり替えられたパルテノン神殿の石板やなぜか動かない和時計、札束が詰め込まれたミイラの木棺などが登場します。これらの美術品にまつわる謎を、天才的な審美眼と修復技術を持つスギモトと彼に振り回されながらもサポートする晴香のコンビが紐解いていくアート・ミステリーです。

図書館にはこの他にも、博物館や美術館などのミュージアムをテーマにした本があります。ぜひ図書館にお越しください。